

研究のあしあと 2

令和 6 年度 久美浜小学校研究推進部

令和 6 年 7 月 29 日

6月26日（水）2校時 校内研究授業

「久美浜ワンダフル」

～久美浜湾の環境を探ろう～

4年生 授業者 和田 映子



今年度の研究授業が始まりました。1回目は、4年生の総合的な学習の時間でした。3年生でした地域学習から視点を広げ、自然や環境を大きなテーマとして、専門家に話を聞いたりそれぞれ調べ学習を進めたりしてきました。そして、調べたことをもとに、久美浜湾が「牡蠣が住める海がいいのか。」「泳げるようなもっときれいな海がいいのか。」自分なりに根拠をもち、意見交流をしていきます。本時は、どういう海がいいのか考えを持つところです。

研究主題とのかかわり

素敵なところだと感じている久美浜湾のことをより知る活動を通して、生き物や水、産業、人との関わり、自分たちの生活など、様々な視点から課題を考えたり、見つけたりし、課題解決に向けて調べ方を考えたり、まとめ方・伝え方を工夫したりするなど、自分たちで学習を進めていく力を身に付けさせていく。久美浜湾の環境、そこに関わる様々な人の思いや願いを大切にしながら、これからの久美浜湾について考え、地域の一員として久美浜湾の良さを守るために自分たちにもできることを取り組んでいこうという気持ちを持たせる。

事後研究会 6月26日（水） 司会 教頭 記録 由良

参観の視点①

個別の学習で、自分の意見がきちんと持てるようにするための教師の働きかけがどうであったか。

- ・前時の段階で、どんな海にしていきたいのか書いていたので、子ども達も考えを持つことができていたし、教師も児童の考えを予想しながら進めることができていた。
- ・机間指導しながら助言できたが、タブレットを持ち内容を確認しながら助言出来たらよかったかと思う。
- ・少数派で二人だけになってしまった子にも適切にアドバイスできた。
- ・自分の体験や思いにつなげて意見を持っていたが、意見の根拠につながるような深く突っ込んだ考えにいたらなかった。



バタフライチャート

「今の久美浜湾の姿はよいと思うか、良くないと思うか。」

参観の視点②

今後の各々の課題に主体的に向かうための授業展開や支援はどうであったか。

- ・今後、計画を立てて聞きに行ったり調べたりすることに、見通しは持てていない。インターネットだけではないことを伝えていけたらと思う。観光などのいろいろな視点での根拠を集め、それを比べてそれぞれの立場での考えを知ったことで、自分の意見を決めるときに決めきれない児童がいた。このような意見を広めていけるような授業展開を考えていけたらと思う。



授業を終えて 授業者より

2学期に向け計画を立てているが、子どもたちの持っている手段が広まらない。

無理だと思ったことは、はじめから言わないも児童もいる。教師主導にならないように気を付けながら、子どもたちの気づきの中から、良い考えや方法を広めて、学習の広まりにつなげていきたい。自分たちで動いていろいろな人に話を聞きにいく力をつける、立場の違う人の考えを聞いて自分の意見の根拠につなげる力を育てる、自分から探究できる子にしていけるよう授業のやり方を探っていきたい。



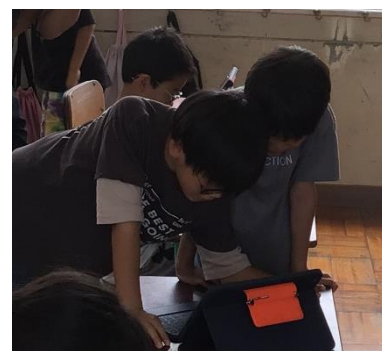
養殖、環境、観光など、自分とは違う視点にも広めていきたいと、黒板やロイロノート、ジャムボードなど思考ツールや交流の手段も使い分けながら、友達の意見を見たり、自分の意見を伝えたりして交流しました。しかし、個別最適、個人個人が課題をもって調べていると、一つの課題に深入りして、考えが広まらない児童が多かったです。自分の課題にだけフォーカスして、友達の意見を聞いても共有しにくく、あまり心に残っていないということもありました。「自分の意見に根拠を持たせる」という意味を捉えにくい児童もいて、「理由を考えるよ」という担任の声もありました。

根拠を持たせるための方法として子どもたちからでてきたのは、インターネットで調べたり、知っている身近な人に話を聞いたりすることだけで、体験や人と関わる経験の少なさを感じました。無理だと自分たちで動こうとせず決めつけてしまっていることも、体験や人と関わる経験の少なさにつながっているかもしれません。

先進校視察では、大人がそれぞれの子どもにダメと言わず付き合い、場所を提供している様子があったそうです。大人が寄り添ってくれているから、安心してのびのびと活動できるのでしょう。ブロック研の中では、低学年のうちに自分の興味のあること、一人一人のやりたいことができるよう種をまいていかなくてはという意見もありました。

・子ども自身が課題に向かい、ここまでの実体験をベースや根拠にして自分の意見を持ち、自分事として考えられている授業だった。今後、意見を決められない、自分では考えを持ちにくいような手立てのいる子への支援を考えていく。他の子とつながる教師の支援やファシリテーターとしての役割を考えていく。

・意思表示ができていたので、ここからはもっと気楽に話せる活動ができれば、たくさんの意見を聞いて、思考ツールで整理する方法で深め合うこともできるようになる。



・個別最適・協働性という視点で、対話によって深まった。対話によって自信を持つ、確信を持つための個別の意見は持っていた。対話を大事にして、個別と協働のバランスを大切にしていく。

「自分が〇〇と思うから、〇〇の海がいい」ではなく、自分たちで動いていろいろな人に話を聞きにいく力をつける、立場の違う人の考えを聞いて自分の意見の根拠につなげる力を育てる、自分から探究できる子にするという担任の思いを実現させるため、2学期、活動の幅を広げて、深みのあるものにする方法を探っていけたらと思います。